

クロスケの家周辺におけるアカネズミの調査

石川 陽一

(トトロのふるさと基金 調査部会)

要旨

アカネズミは日本の森林に広く分布する日本固有の小型哺乳類である。林内の適切な保育・管理が行われていないと特定の種の優占度を高め、小型哺乳類群集の多様化を低下させる危険性が示唆されている。そこで、今回は予備調査の意味合いも含め、現状の小型哺乳類、特にアカネズミの生息の有無を確認することを目的としシャーメントラップによる調査を行った。結果、捕獲できた個体は無かったが、今後、トラスト地の管理方針への重要な情報となり得ると考え、トラスト地内での継続的な調査の実施を提唱する。

キーワード：シャーメントラップ

はじめに

アカネズミ(*Apodemus speciosus*)は日本の森林に広く分布する日本固有の小型哺乳類である。主に低地～低山帯にかけて分布し、下層植生の発達した豊かな環境を選んで生息するといわれている。アカネズミは広葉樹林に多く生息することが明らかにされたが、現在、人工針葉樹林であっても広葉樹二次林に接し、その影響を受ける林縁部分においてはアカネズミの利用が確認されている。林内の適切な保全・管理が行われていないと、特定の種の優占度が高まり、小型哺乳類群集の多様化が低下する危険性が示唆されている。そこで、今回は予備調査の意味合いも含め、現状の小型哺乳類、特にアカネズミの生息の有無を確認することを目的とした。

調査方法

ネズミ生け捕り式罠である H.B.SHERMANTRAPS 社製のシャーメントラップ L 型を使用し、餌にはオートミールを毎回適量用いた。

トラップはクロスケの家周辺の傾斜のある竹林、家屋の壁面、広葉樹林に近いクマザサの群落、広葉樹林と環境が異なる 4 か所を選定し、各エリアに 3 個ずつ計 12 個を設置し、20 時から翌 2 時まで 2 時間ごとに捕獲状況を確認した。

結果

アカネズミを含む小型哺乳類の捕獲は確認されなかった。しかし、1 つだけ明らかに餌の量が減っているものが確認された。

考察

本調査ではアカネズミは確認されなかった。考えられる要因として、1 つは設置場所の問題が挙げられる。クロスケの家母屋裏手に中型哺乳類の足跡が発見されたが、あくまで通り道として

トトロのふるさと基金 自然環境調査報告書 10: 38-39. 石川陽一 (2013) クロスケの家周辺におけるアカネズミの調査

の利用の可能性もあり、小型哺乳類に適した環境は作られていないことが考えられる。

次に、トラップ自体の数の少なさである。一般に野ネズミ調査に使用されるトラップ数は50～200個であり、本調査では十分な数を用いたとは言い難い。

最後に、調査当日に打ち上げ花火や見学会など、音を立てることが多く、少なからず調査に影響が出た恐れがある。

おわりに

クロスケの家周辺での調査に関して必要性はそれほど大きくないものとする。しかし、先述の通り小型哺乳類の生息は生態系の保全において、ある種のステータスとなっており、トトロのトラスト地での調査を行い、小型哺乳類の利用の有無を明らかにすることは、今後の管理方針への重要な情報となり得ると考え、継続的な調査の実施を提唱する。